

2016
9 | 25
(第400号)

リサイクル通信

The Reuse Business Journal

発行所 (株)リフォーム産業新聞社 〒104-0061 東京都中央区銀座8-11-1
TEL 03(6252)3451 FAX 03(6252)3461
発行人 加髭光次郎 《毎月2回発行》年間購読料13,000円

赤字でも買取資金つくる方法 G B Jが広める動産担保融資

会社の存続・発展のために重要な業務のひとつが資金繰りだ。買取りで大量の現金が必要になるリユース事業者なら尚さら。動産を担保にした融資（ABL）が日本でも静かに広がりつつあり、目先が利く中古事業者も使い始めている。知っておけば、チャンス逃さずに済むかもしれない。

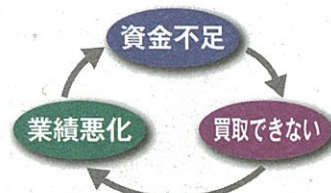
買取カウンターの上に売れ筋商品があるのに、買取資金が足りず歯ざり。リユースは原則現金商売のため、資金不足で商品を買って逃してしまつてはならないだろうか。

一部のリユース店は、買取資金調達に「動産担保融資（ABL）」を使い、こうした状況を回避している。

ゴードン・ブラザーズ・ジャパン（GBJ・東京都千代田区）は、2006年に日本政策投資銀行とアメリカのゴードンブラザーズが共同出資してつくったノンバンクだ。不動産を持たない中小企業にも融資できるように、在庫商品や機械設備、売掛金など「動産」を担保に設定できるABLを日本に広めようとしている。

現在90社の融資先があるが、実はその内10社がリユース企業だ。ブランドリユースを中心に、古着店やスポーツ用品を扱う企業もあると言つ

■資金不足で陥る負のスパイラル



■ABLで好循環を生み出す



ブランドリユースと質事業を行う「銀蔵」も3月にGBJと提携しこの仕組みを利用している。ブランドバッグや宝飾品、時計などの自社在庫を担保に、資金をABLで調達。販促や買取りを積極的にやっている。



ゴードン・ブラザーズ・ジャパン 田中健二CEO

銀行にできない

銀行からの借入れとABLが違う点は、価値のある在庫があれば資金を借りやすい点だ。一般的に銀行は、業歴が浅い会社や赤字を出している会社、銀行がすでに貸し込み過ぎている会社、一過性の不祥事を起こした会社には融資をしづらい。

しかしGBJには、在庫を評価しモニタリングするノウハウがあるため、担保になる在庫や設備さえあれば「赤字でパランスシートが悪くても」（田中健二CEO）貸し付けることができる。さらに、最短で2週間と貸付までもスピーディーだ。まるで「企業向けの質店」のよう。買取資金さえあれば…と頭を悩ませるリユース企業があれば、ABLは一考の

■GBJ導入事例

| TASAKI | ウィレッジヴァンガード |
|---|---|
| 旧社名は田崎真珠。設備・在庫の適正化やブランドの再構築を行う際GBJに担保在庫評価を依頼。滞留在庫の換金提案も受けた。その後業績は成長ステージに。 | 出店ベース鈍化で滞留在庫増加。在庫評価損を計上した。GBJが閉店セールやアウトレット店の新設を勧め売価アドバイスを実施し改善した。 |

「仕入れにも注目

別々の観点からも、GBJとリユース業界の関係は濃い。同社は担保の在庫を換金するためにアウトレット催事を開催したりフラッシュECやクロードマーケットで売却するなどしているが、重要な販路のひとつに国内ホールセールがある。有力な買い手はリユース企業だ。取引のあるリユース企業は200社にのぼる。

同社はABLの担保以外でも、不良在庫のキャッシュ化サポートなど企業の運転資金に関するコンサルティングを行っている。そして他の金融機関が行うABLの支援も行っているため、在庫換価のためリユース企業との連携が欠かせない。まだ日本には充分根付いていないABLだが、GBJだけでこれまでに評価した件数は1364件。簿価で20兆円を超える。融資も224億円実施している。

買取資金調達手法と、在庫買取り（仕入れ）という2つの側面において、ABLはリユース業界が注目しておくべきファインセンスかもしれない。